

島田 譲の Q & A 子育て



©ALBIREX NIIGATA

今回のコラムでは、皆さんからいただいた子育てに関する質問に答えていきます。本当にたくさんの質問をいただき、ありがとうございます。すべての質問に回答することはできませんが、似ている質問についてはまとめてお答えできるようにしていきたいと思います。それではさっそく行きましょう！

Q1

子どもを叱るときに 注意している点は ありますか？

(50代・男性、50代・女性)

子どもの叱り方については、子育て中の親なら誰もが悩むテーマだと思います。
僕が一番気をつけているのは、自分のために「怒る」のではなく、子どものために「叱る」ことです。
「怒る」とは、その場の感情に流されて自分のイライラや怒りをぶつけたり、子どもの過去の行動を一方的に批判したりすることです。僕は、できる限り理性的に子どもの未来のために、愛を持って「叱る」ように意識しています。



大声を出したり、強い言葉を使った時、人格を否定するようなことは言わないようにしています。

ただ、綺麗事だけではうまくいかないのが子育てなのも分かります。気をつけていても、時には感情的に大声を出したり、余裕がなくて一方的に強い言葉を発してしまうこともありますよね。
そんなときは気持ちが落ち着いてから、大人からちゃんと謝ること、そして子どもと対等な目線で気持ちを伝え合うべきだと思います。大人には大人の言い分があります。子どもにも子どもの言い分があって、そこには悪意なんてないからです。

また、夫婦で役割分担をして、子どもの逃げ場がなくならないことにも気をつけています。
我が家では基本的に妻が叱り、僕がフォローする役割になることが多いです。妻からは「たまには役割を変わってよ」と僕が叱られています(笑)。

広報広聴係より

たくさんの質問をお寄せいただき、ありがとうございました。スペースの都合上、島田選手からお答えいただいた回答すべてを掲載することはできませんでしたが、Q4、Q5まで掲載していますので、ぜひご覧ください。

Q4. 子育て中に夫に頼ることが苦手なのですが… / Q5. 子どもがサッカーばかりで勉強をしないのですが…

■問合せ 広報秘書課 広報広聴係 ☎ 77・8363



特設ページ

Q2

うまくいかないときや 苦しいことに立ち向かう 子どもの励まし方は？

(40代・男性、50代・男性)

僕は幼いころ、母親から「あなたはやればできる子」と言われて育てられました。なので、僕は「勉強もサッカーも本気を出せば、いつでもやれるんだ」というまったく根拠のない自信を持って育ちました。

母がどこまで本気で言っていたかは分かりませんが、僕にとって母からの「やればできる」はパワーワードでした。自分の子どもであるが故に大切に育てたいし、辛く苦しい思いはしてほしくない、可能性のある道に導いてあげたいという気持ちも分かります。でも、限界や可能性を決めるのは本人であるべきです。子どもが困難に立ち向かうときや、なかなかうまくいかないときこそ、子どもが一番成長しているときだと思つて、見守りましょう。

結局、親にできることは、子どもを信じてあげること、そして「やればできるよ」の一言くらいではないかと思えます。

もう1つは、結果よりもプロセスを褒めることです。発表会でも運動会でも、もつと言えれば家でのブロック玩具遊びやお絵描きでも、子どもが最後に出した結果や成果よりも、そこに至るプロセスに対して褒めてあげることが意識しています。

僕に似て、娘も根っからの負けず嫌いなので、結果への執着がすごいんです。だからこそ、結果が良くても悪くても、そこに至るプロセスを認めてあげたり、褒めてあげることが大切かなと思つています。



Q3

習い事の決め方は どう考えていますか？

(30代・女性)

これは、子どもを持つ選手たちの間でもよく議論になります。僕の考えは大きく分けて2つです。

1つは「子ども自身が好きで楽しいと思える習い事」をしてほしいと思っています。

いくら親が「我が子はこれが向いている」「将来のためにこれをやってほしい」と思つても、本人が好きで楽しくなければ、上達もしないし長続きもしません。親としては「せっかくな入会金を払って始めたのに」「自分でやりたいって言ったのに」というような気持ちも分かりますが、子どもだってやってみなければ、自分に合うかどうか分かりません。そういう意味で、子どもが「好きで楽しい」と思えること、もつと言えれば「周りのことを忘れて夢中になれるようなこと」であれば最高だと思います。

もう1つは、「広く浅くでも良いので、できる限り多様な習い事」をしてほしい、と思つています。

僕は5歳でサッカーを始め、誰に強制されることもなくサッカーに夢中になりました。でも、5歳で生涯に渡って自分の情熱をかける何かに出会うなんて、奇跡のようなことだと思います。だから自分の子どもには、できる限りいろいろな経験や体験をして、さまざまな選択肢があることを知つて、ゆつくりと自分が情熱を注ぐことができる何かを見つけてほしいと思つています。だから「子どもがやりたいと言えれば、できる限りやらせてみる」、が我が家の方針です。

ちなみに今は、体操と英語とチアダンスに楽しく通つています。



アルビレックス新潟 島田 譲 選手

茨城県出身。ポジションはミッドフィルダー、背番号20。2023年6月から「燕市子育てサポーター」を務める。

偉そうに皆さんからの質問に答えさせていたいただきましたが、僕の回答は必ずしも正解ではありません。そもそも、子育てに正解はないように思います。SNSで見かける子育て術も流行りの子育てメソッドも、1つの方法にすぎません。家庭や子ども数だけ、そこにはさまざまな悩みや葛藤があり、それぞれの状況の中での最適解を探さようなものだと思えます。周りの情報に流されすぎずに、それぞれの子どもや家庭にあった子育てをすることが何より大切なことではないかと思えます。

僕は愛さえあれば、最後はなんとかなると思つています！